

投稿コーナー

世界遺産「富岡製糸場」②

荒川良雄

群馬県富岡市にある富岡製糸場が、世界遺産登録の対象になったとのニュースは、まことに嬉しい限りである。

明治初期、富国強兵を国是とした日本は富国の一環として、官営の生糸生産工場の設立を図り、お雇い外国人に工場建設・技術伝承を委託した。

生産工場建設のめどもつき、製糸技術習得及び地元への普及の基幹要員として、15歳から25歳の女子を差し出すようにとお触れがあり、それに応じたのは、旧士族・豪農等社会の指導的立場にある者であった。

例として、松代藩士横田一馬の次女横田英（以下「英」と表現する）を挙げる。横田一馬は（長野県松代町一帯）12町村の区長をつとめる有力者であったが、お触れを受け、「天下のおため」と英を差し出すこととした。横田一馬は「能く身を



かつての富岡製糸場での作業の様子

群馬県富岡市にある富岡製糸場が、世界遺産登録の対象になったとのニュースは、まことに嬉しい限りである。

明治初期、富国強兵を国是とした日本は富国の一環として、官営の生糸生産工場の設立を図り、お雇い外国人に工場建設・技術伝承を委託した。

生産工場建設のめどもつき、製糸技術習得及び地元への普及の基幹要員として、15歳から25歳の女子を差し出すようにとお触れがあり、それに応じたのは、旧士族・豪農等社会の指導的立場にある者であった。

例として、松代藩士横田一馬の次女横田英（以下「英」と表現する）を挙げる。横田一馬は（長野県松代町一帯）12町村の区長をつとめる有力者であったが、お触れを受け、「天下のおため」と英を差し出すこととした。横田一馬は「能く身を



現在の富岡製糸場

慎重に、国の名家の名を落とさぬよう心をもちうるよう、入場後は諸事心をなやませ、まことに嬉しい限りである。

明治6年3月、英を含む16人は松代を出発し、3泊4日で富岡に到着した。16人は、初めて見る巨大な煙突とレンガの建物に驚嘆した。

工場長への挨拶も終わり、工女達は宿舎へ入居した。宿舎は無料・食事も無料、フランス人医師のいる場内診療所での受診も無料、そのうえ製糸技量に応ずる報酬を得ることができ、富岡製糸場の初期においては、後に喧伝された女工哀史とは無縁と思われる。

食事は、朝食は汁に漬けた物、昼食は煮物、夕食は干物等、そして1日・15日・28日は赤の飯と鮭の塩引きで、これが大いに楽しみだったとのこと。

明治6年4月、工女の人員は500人強で、長野県



富岡製糸場の敷地内に今も残る「目標」看板



今も工場内に残る沢山の製糸機械

の180人を筆頭に、ほぼ全国から集まっていた。しかしホームシックや病気の為、入退場は激しかった。そのような中、松代出身工女の製糸技能は、格段の進歩を遂げていた。

明治6年6月、国家事業の激励のため、富岡製糸場を英照皇太后及び昭憲皇太后が行啓された。工場長尾高氏、お雇い外人プリューナー氏は申すに及ばず、工女は衣服を改めお迎えした。2011年8月下旬には、現天皇・皇后両陛下が富岡製糸場を見学されている。

明治7年7月、故郷松代に製糸工場が出来るので、その要員として英一同は富岡製糸場を辞した。彼女たちは最新技術習得者として、故郷に錦を飾ったのである。（完）

俳句

行く春や手のひらほどの懸仏
病葉のはらりはらりと一日過ぐ
ランドセルれんげ畑を横切りぬ
草笛や少年の目を惜しみたる
摩り切れしちひろの絵本広島忌

十詩 母の日の花にも勝る孫の顔
安代 草笛や速く白馬の山の形
保子 躑躅山折々見ゆる稲田かな
明美 初夏やハンカチの花揺れやまず
由美

夕闇の小さき鐘の君影草 規子
智子
八重子
とく江
光娥
（つみ草）

四方山話

永見洋介

義父が大陸から帰還した傷痍軍人で、右胸に弾丸の破片が残り、そのため右腕が不自由であった。それでも農業や山仕事をしていた。山陰の日本海側、島根県浜田市の山間部である。

結局、山桜が咲き、八重桜が散り終えるまで滞在する事になってしまった。しかし、私は墓地掃除、水路溝の掃除や保全のセメント練り、農機具の修理、今は田植機を使っているの育苗器の苗板に種蒔き、庭の手入れ、庭木剪定と、作業ばかりをさせられていた。年寄りが健在で注意をされると、手入れもするのだから、が、喧しく言う者が居ないと

なる、庭は荒れ放題になってしまったのだろう。私の方は、慣れない連日の肉体労働で、体中が筋肉痛になった。

義父は大陸から帰還した傷痍軍人で、右胸に弾丸の破片が残り、そのため右腕が不自由であった。それでも農業や山仕事をしていた。山陰の日本海側、島根県浜田市の山間部である。

結局、山桜が咲き、八重桜が散り終えるまで滞在する事になってしまった。しかし、私は墓地掃除、水路溝の掃除や保全のセメント練り、農機具の修理、今は田植機を使っているの育苗器の苗板に種蒔き、庭の手入れ、庭木剪定と、作業ばかりをさせられていた。年寄りが健在で注意をされると、手入れもするのだから、が、喧しく言う者が居ないと



最長距離を走る新宿からの夜行バス

親族で親の世代は、未だ数人が健在である。決して奢ること無く生きた義父の人生だった。親の世に「正しく、しっかりとやれよ！」と精神的にも押されている思いがするのである。

義父、行年九八歳の大往生であった。

水車小屋
昭和三〇年代の故郷には、小川に葦葺き屋根の水車小屋があった。遠く



山間部の遅い春を彩る桜

た感触があり、少しざらざらと音がするが、夏には快適な寝具である。そして、そば殻を少し含んだ蕎麦粉は、粉の温度を上げずに時間を掛けて挽くので、蕎麦打ちした蕎麦にはとても風味があり、美味しいのである。

周囲の田畑が耕作されなくなり杉の木が植えられて四〇年、今は立派な大木の杉林になっている。

猫の話
よく猫は家に居付くと

埼玉学習センターからのお知らせ

- 一般公開講演会 要予約
 - 6月29日(日) 「埼玉の鉄道—鉄道・地域・経済—」 講師 老川慶喜 (立教大学経済学部教授)
 - 7月13日(日) 「埼玉県の人びとは戦争をどう支えたのか—慰問誌「銃後の埼玉」(1940年)をめぐって—」 講師 一ノ瀬俊也 (埼玉大学教養学部准教授)
- 時間 各日とも14:00~15:30
予約・問合せ 048-650-2611

サークル案内

サークル おおみや

- ★6月19日(木) 東京芸大奏楽堂での「モーニングコンサート」昼食後 東京芸大美術館での「法隆寺展」東京文化会館ロビーに10時集合
- ★7月3日(木) 「合宿旅行の詳細確定、オペラ鑑賞(DVD)「ドン・カルロ」

朗読の会「いろ」

- ★毎月第2・第4木曜日 5月22日、6月12日、7月10日
- ★第5講義室にて 13時~16時30分
- ★体験歓迎

健康体操研究会

- ★毎週火曜日に開催 6月3日、10日、17日、24日
- ★体験歓迎

江戸時代の古文書を読む会

- ★定例勉強会 5月31日(土) 13時~16時
- 6月7日(土)

放送大学熟年会

6月14日(土)

- ★定例会・勉強会 毎月第2火曜日13時~15時
- ★7月勉強会は「全体話し合い(グループ討議・時事問題など)」
- ★パソコン学習会 第2以外の火曜日 10時15分~15時15分
- ★午前中ワード、午後インターネットなど
- ★6月のイベント 6月12日
- ★三浦半島三崎漁港にて海底散策と市場で買い物

囲碁専科

- ★毎週火曜日 午後1時より
- 6月の開催日は：6月3日、10日、17日、24日

埼玉同窓会

- ★第25回定例総会開催 平成26年度活動計画、及び収支予算を決定
- ★役員選出
- ★会長 森岡加代(留任)
- ★公開講演会 埼玉学習センターとの共催 開催日 6月29日(日) 7月13日(日)
- ★会場 放送大学叢書などを販売

編集後記

若葉が萌え、風が薫る季節になりました。新年度を迎えて学生の皆さんも、いよいよ学習が本格化してきた頃ではないかと思われまふ。

32号は、季節を感じる爽やかな紙面にしてみました。次号も、皆さまからの投稿をお待ちしております。(冬)